

2019年4月

岐阜協立大学へ生まれ変わります
看護学部看護学科設置



新2号館

② 校名変更・看護学部設置特集

- | | | |
|--------------|-----------|--------------|
| ④ 地域とのつながり | ⑩ キャンパス彩々 | ⑬ 近著紹介 |
| ⑥ 教育最前線 | ⑫ NEWS | ⑭ 平成29年度決算報告 |
| ⑧ 輝け!アスリートたち | ⑬ 研究室だより | ⑯ お知らせ |

特集

校名変更・看護学部設置

2019年4月 岐阜協立大学に校名変更予定

2019年4月の看護学部開設に合わせて本学の大学名称を「岐阜協立大学」に変更します。
岐阜協立大学は三つの力により、未来を拓きます。

「教育研究の力」

岐阜経済大学は50年の歴史の中で、経済・経営の学びを中心とした教育研究活動に重きをおき、地域に有為の人材として25,000名もの卒業生を輩出してきました。

あらたに看護学部を設置し、教育研究の多様性を広げます。この校名には、多様な学生が相互に触発され学び喜びを獲得し、生涯学び続ける力をつける、という想いが込められています。

「人間力」

本学で学ぶ皆さんには、経済活動を発展させ、よりよい生活ができる力（経済学部）、企業や組織を永続的に発展させる力（経営学部）、生命の誕生から看取りまでを支え寄り添う力（看護学部）とともに、自己の自律と他者と協働して生き抜く力を身につけ、人々の幸福そして地域、日本、世界へと貢献できる人材になってほしいという想いが込められています。

「地域の力」

私たちは開学より50年もの間、地域の方々に支えられ歩んできました。その支えにお応えできるよう、市民の皆様によりよい生活に資するよう地域活性化や地域貢献を謳い、行動していきます。私たちは地域というキーワードと共に生きてきた大学です。今後も地域の力を一層高めていける力となるという想いが込められています。



「教育研究の力」「人間力」「地域の力」の三つの力は、ひとつの力だけでは成り立ちません。三つ全てが完全につながってこそ大きな力となっていきます。この三つの力を合わせたものを「協立」という文字に想いを込めました。その想いをまとめ岐阜という地から三つの力を発信することから、「岐阜」「協立」という文字を繋ぎました。

また、この「協立」には、大学においては「学生、教員、職員」の三つの力が、地域においては「自治体、経済界、大学」の三者が大きな力となり、地域と大学の新たな未来を創っていくという想いが込められています。

大学ビジョン(岐阜協立大学への校名変更及び、看護学部の設置に伴う新ビジョン)

1.教育改革

“GRIT (やりぬく力) を育てて学生の“のびしろ”を伸ばす教育を展開する。
教育内容の充実には資するよう教育環境(施設・設備)を整備する。
教員の研究活動の活性化を図る。

2.学生生活の充実

学生が快適な学生生活を過ごせる体制を整備し、支援の充実を図る。

3.地域への貢献と連携

知の拠点としての存在感を確立する。

4.教育組織・マネジメント

学長のリーダーシップ体制を整備し、教育組織・マネジメントを強化する。

5.戦略的経営

広報戦略ーブランド戦略ーを展開する。



2019年4月 看護学部設置

2018年11月文部科学省より、来年4月の看護学部設置が認可されました。

2017年4月に法人合併(学校法人大垣総合学園)した大垣女子短期大学の看護学科(3年制)をベースに、本学に看護学部看護学科(4年制)を設置します。看護学部は、日本中央看護専門学校22年及び大垣女子短期大学の看護学科6年の伝統と約1,000名の卒業生の実績を引き継ぎ開設されます。なお、大垣女子短期大学の看護学科(3年制)は募集を停止しました。



岐阜協立大学看護学部長
就任予定者 **我部山 キヨ子**

東京大学医学部附属病院勤務、聖路加看護大学大学院修了 修士(看護学)
奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了 博士(PhD)
三重大学大学院医学系研究科教授、京都大学大学院医学研究科教授を経て
2017年4月大垣女子短期大学看護学科長就任
全国助産師教育協議会理事・副会長、厚生労働大臣賞受賞 など

▶ 高度医療や地域医療の未来を担い、創造できる広い視野を持つ高度専門職業人を育成

複雑かつ激変する医療界や社会のニーズに応えるべく、次代の医療現場や地域社会に広く貢献できる人材の育成を目指し、現在の大垣女子短期大学看護学科(3年制)をベースに、岐阜協立大学に看護学部看護学科(4年制)を設置認可され、看護師と保健師の養成を行います。学問に対する探究心と人間に対する深い洞察力、さらに倫理観に基づいた看護学の専門知識・技術を身に付けることができるよう、独自のカリキュラムを展開します。

▶ 地域医療から高度医療まで多種多様な実習施設

地域の基幹病院である大垣市民病院を中心とした高度医療施設と、地域に密着した病院・診療所などの医療現場で、現在および将来に求められる看護職に必要な専門的知識と実践力を養うことができます。

▶ 国家試験合格に向けた強力なバックアップ

学ぶ楽しさを実感しながら主体的な学修が継続できる体制を整え、全員で合格を目指します。高い合格率を誇る前身の短期大学からのノウハウを活かし、国家試験合格へ強力なサポートをします。

取得可能な資格

- 看護師国家試験受験資格
 - 保健師国家試験受験資格(選択制)
 - ・ 養護教諭二種免許状* ・ 第一種衛生管理者免許状*
- *保健師免許取得後、申請により取得可能

めざす就職先

- 〈看護師として〉病院・診療所・訪問看護ステーション・介護保険施設
・ 社会福祉施設、市区町村、保育所、大学院進学など
〈保健師として〉市区町村、保健センター、保健所、企業の健康管理室、病院・健診機関など

キャンパス整備竣工式

本学では、創立50周年記念事業第2期キャンパス整備として新2号館を新築し、2018年8月7日竣工式を挙行了しました。

新2号館は、大学正面に位置し、鉄骨造3階建てで、小塔がある本学のシンボル棟となります。1階は、教務課、学生課、キャリア支援課の学生窓口をワンフロア化し、ワンストップサービス等の学生相談の利便性を一層高めます。2階は、小教室、大教室及びラーニングコモンズ(自習やグループ学習ができる空間)の環境を整備しました。3階は、大・中・小会議室及びリフレッシュコーナーを整備しました。また、キャンパスゲートのオブジェは、創立50周年記念事業のテーマ「re-Birth」～西濃学園都市に新たないびきを起こす～「いびき」を岐阜県産の集合材を用いたシンボル柱によって表現しています。

また、大学正面の前庭も合わせて整備し、本学のイメージは一新しました。



法人広報戦略委員会の設置

〈設置目的〉

学校法人大垣総合学園傘下の岐阜経済大学並びに大垣女子短期大学の有形・無形の資源・価値を両大学教職員が共通認識できるようにするとともに、両大学の価値を広くステークホルダー、及び社会に繰り返し発信することによって、両大学の新たな社会的価値を高めていくことを目的とします。

〈委員会構成員〉

- 委員長：竹内治彦 経営学部教授
副委員長：松村齋 大垣女子短期大学幼児教育学科教授
委員：中野哲 副理事長、佐々木喜一郎 経営学部講師



高橋正紀教授、ゼミ生が「バルシューレ」を通じて 東日本大震災の被災地調査、 おおがきっすスポーツスクールで地域スポーツに貢献

高橋正紀ゼミでは、2011年度から被災地支援のゼミ調査旅行を開始し、今年で5回目となる今回は、2018年2月27日(火)～3月1日(木)に実施しました。

この活動の目的は、東日本大震災の被災地のことを決して忘れないようにするためであり、特に3回目以降の訪問では、放射能による汚染被害が甚大であった福島県の子供達が屋外遊びの不足から運動量不足に陥っている現状に対して私達にできることとして、ゼミ活動で培われたバルシューレ指導を行うことを通して、福島県の子供達の身体的状況を調査すると同時に、屋内で十分な運動量を確保しながら楽しくボール運動ができる体験を提供することです。

2011年度より開始した被災地の小学校等での支援活動においては、高橋ゼミの中心的なテーマである「スポーツで子供たちの未来を明るくする」というテーマに基づいて、日頃のゼミ活動で身に付けた力を存分に発揮することを心掛けています。

大垣市におけるスポーツの普及、振興を図ることを目的に岐阜経済大学と(財)大垣市体育連盟の間で結ばれた連携協定に基づいて、2010年度から実施されている大垣市内の小学1、2年生を対象とした「おおがきっすスポーツスクール」が今年度も開催されます。(2018年5月～2019年3月の火、金曜日に51回実施)

バルシューレを教材とし、高橋正紀教授が医学博士論文で立証したスポーツを通じての人間形成の専門理論(スポーツマンのこころ)に基づいて指導します。コーチ役にはこれらの両方を学んだ高橋ゼミの学生が行っています。



バルシューレとは？

ドイツで生まれた低年齢用スポーツであり、ボール運動です。ドイツ語でボール(バル)&スクール(シューレ)の意味。ボールを使った様々な運動を楽しく実施し、運動能力の開花を目指すものです。ボールを使い、投げる、放り上げる、蹴るなどの動作や判断力、空間把握能力などを養うプログラムを通じて、まずはスポーツを好きになります。



高大連携校 大垣商業高等学校の生徒に 「起業家教育講座」を行ないます

本学と高大連携校である大垣商業高等学校にて、「起業家教育講座」を行ないます。この高大連携講座は大垣商業高等学校の総合ビジネス科の生徒を対象に、本学の保有する知識・ノウハウを提供し、「起業家」を目指す高校生の学習・知的発達に貢献することを目的としています。

平成30年9月10日～12月10日において本学5名の教員が講師を務めます。

■内容

月日	テーマ	担当者
9月10日	日本経済と起業について	大前 智文 経営学部講師
10月22日	地域とまちづくりについて	大垣市経済部商工観光課
11月 5日	西濃地域の企業の特徴から起業を考えよう	三和 元 経済学部准教授
11月12日	経営を支援するITC戦略	佐々木 喜一郎 経営学部講師
12月 3日	会計の国際化について	為房 牧 経営学部講師
12月10日	経済のグローバル化について	韓 金江 経営学部教授

高大連携講座とは？

本学と大垣商業高等学校は、2009年3月に地域社会を支える人材育成をめざし、高大連携教育協定を締結しており、同年4月からこの講座を開始し、今回で10年度目となります。

「まちなか子ども食堂」の開催

2018年2月24日、大垣市商店街にある「ちよいみせカフェ」にて、料亭四鳥と岐阜経済大学マイスター倶楽部のコラボレーションによる「まちなか子ども食堂」を開催しました。



マイスター倶楽部では、大垣市中心市街地商店街に賑わいをつくり出すことをテーマに、様々なまちづくりプロジェクトを実践しています。この「まちなか子ども食堂」の目的は、子どもたちを対象に、栄養や身体づくりを考えた昼食を提供することで、商店街に「サード・プレイス(家でも職場もしくは学校でもない第3の居場所)」をつくり、子どもたちが商店街に訪れるきっかけをつくることです。

当日は38人の子どもが参加し、料亭四鳥に提供して頂いた料理を楽しみました。献立は、温かい豚汁やOKB農場で作られたOKB米を使ったご飯、岐阜の地鶏である「奥美濃古地鶏」を使用した唐揚げやつくね、ひじきの煮物や高野豆腐などといった和食を中心としたもので、地元の素材を生かした料亭の味です。これらの献立を決めるにあたっては、学生と四鳥で何度も試食会を重ねてきました。

このプロジェクトはその後、「食育レストラン」と名称を変えて引き継いでいます。

地域



「食育レストラン」の開催

2018年5月26日、大垣市商店街にある「ちよいみせ」にて、料亭四鳥と岐阜経済大学マイスター倶楽部のコラボレーションによる「食育レストラン」を開催しました。

大垣市中心市街地の賑わいや商店街における「サード・プレイス」づくりの目的は継続しながら、特に子どもたちに向けての「食育」に重点を置きたいという想いで、前述の「まちなか子ども食堂」から、この名称に変更しました。

5月はテーマを「カツオ節」とし、カツオ節を削るパフォーマンスを行いました。子どもたちの目の前でカツオ節を削り、香りの良い削りたてのカツオ節をご飯に使用、日本食のおいしさの基本である「出汁」がどのようにできるのかを子どもたちが見て触ってわかるようにしました。カツオ節を削ったことがない学生たちでしたが、事前の練習会を踏まえて、カンナを使って薄く均一に削ることができるようになりました。このような光景をはじめ見る子どもたちも多く、興味津々でパフォーマンスを見つめ、美味しそうにいただいていた。

2018年度は「食育レストランプロジェクト」と題して、月に1回程度の定期的な開催を目指しています。



カツオ節を削る学生

豪雨災害義援金募金活動を行いました

2018年7月20日(金)に「平成30年7月豪雨災害義援金募金活動」を大垣駅周辺で行いました。

高校生、大学生をはじめ多くの方々から、たくさんの募金を頂くことができました。これらの義援金につきましては、日本赤十字社岐阜県支部にお届けし、被災された方々のために役立てていただきたいと思いますと考えております。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。





海外語学留学

本学では外国の大学との学術交流や学生の異文化理解・語学習得の教育を重視し、その体制を整えており、在学は協定大学に1年間の留学をすることができます。

1年間の留学生活を通して、語学力の向上のみならず、国際感覚を深めることができます。留学先で取得した単位は本学で認定を受けられます。

ハワイ 留学体験談 (ハワイ大学 マノア校)



きっかけ

私はもともと語学にあまり興味がありませんでした。語学を学びたいというより海外の異文化に触れ、自分の視野や考え方の幅を広げたいと思ったのがきっかけです。一年間海外の学校に行き、生活するという経験は学生のうちしかできないと思い、思い切ってこの海外語学留学に参加しました。

事前に学習しておいたこと

ハワイに行く前に私が行ったことは、単語力を身につけることです。日頃の生活から、自分の目に入ったものを英語では何というかを考えて生活するようにしました。わからないものは辞書を使い調べることで少しずつ単語を身につけていきました。しかし単語は多く身につけましたが、実際に英語を話すということをしていなかったため、最初は会話がうまくできませんでした。

現地での生活

ハワイでの生活は常に英語を使うことを心掛けました。私は正直英語が苦手でしたが、自分から積極的に話すことで会話が身に付き、友人がたくさんできました。また異国の友人といつも一緒にいたため、学校以外のプライベートでも常に英語で会話していました。自然がとてもきれいなので、ビーチやハイキングなどによく出かけたり、ボランティアに積極的に参加したりして、そこで出会う人と挨拶や会話することで英語力が身につけてきていると実感できました。

留学先での研究

留学先では、たとえ日本人同士でも英語以外を話すことは禁止とされています。授業もすべて英語で進められるため、授業中は気を抜くことができません。宿題も毎日あるので最初は宿題を理解することも大変でした。しかし、日本の英語の授業とは違い、生徒主体で進められ会話の中で学んでいくので、楽しく英語を学ぶことができました。他にもハロウィンやクリスマスなど様々なイベントも設けられていて、楽しくハワイの文化に触れることができました。

経済学部
公共政策学科4年

川崎 翔太さん
(岐阜県 岐阜城北高校)



後列左から3人目



前列左から3人目

1年間の海外語学留学以外に3週間程の語学研修があります。

2018年度 海外語学研修予定者

研修語学	名前	期間	研修語学	名前	期間
英語	渡澤 幸貴 (スポーツ経営学科 3年)	2月 3週間	中国語	北川 晴菜 (経済学科 2年)	9月 3週間
	坂井 一輝 (経済学科 2年)			杉田 竜基 (経済学科 2年)	
ドイツ語	佐久間 大夢 (経済学科 2年)	2月 3週間		田郡 大督 (経済学科 2年)	
	湯瀬 凜樹也 (情報メディア学科 2年)			今尾 緋呂 (情報メディア学科 2年)	
	前島 三太郎 (スポーツ経営学科 3年)				

学長裁量経費の採択状況

学長裁量経費とは、教育活動の更なる活性化のために教育改革に取り組む教職員及び学部を財政的に支援することを目的とし、教育改革プロジェクトに対する助成金として交付する事業費をいいます。

2017年度には佐々木喜一郎講師と高橋勉教授、2018年度は、藤井えりの講師を代表者とした事業が採択されました。

事業期間	代表者	共同実施者	事業名
2017年度	佐々木 喜一郎 講師	原田 理人 教授 他4名	「図書館ラーニング・commonsの 拡張と進化」
	高橋 勉 教授	勝田 美穂 教授 他3名	「地域に有為の人材」について 考えるパネルディスカッション
2018年度	藤井 えりの 講師	有森 俊文 准教授 他1名	「専門演習とPAC支援室の 連携による公務員養成」



2017年度「地域に有為の人材」について考える
パネルディスカッションの冊子

2017年度「図書館ラーニング・commonsの拡張と進化」

学生授業評価賞の表彰式が行なわれました

2018年5月9日(水)に学長室にて、2014年に創設され4回目となる「学生授業評価賞」の表彰式が行なわれました。学生たちを対象に毎年行っている「授業アンケート」の結果をもとに、学生満足度の高かった教員を顕彰するものです。

今回は、講義科目(受講人数50名以上/50名未満)、語学・体育実技・実習科目、演習の4部門の中から各1名・計4名を選定しました。



○受講者50名以上の講義科目

「健康とスポーツ」 揖斐 祐治 経済学部講師

○受講者50名未満の講義科目

「レクリエーション演習」 古田 康生 経営学部准教授

○語学、体育実技、実習科目

「柔道」 長瀬 あゆみ 非常勤講師

○演習

「演習Ⅱ」 為房 牧 経営学部講師

認知症サポーター養成講座を実施しました

7月10日に公共政策学科の専門科目「介護概論」の授業の一環として、認知症サポーター養成講座を実施し、受講生が認知症サポーターの認定を受けました。

本学の隣に位置する、「特別養護老人ホームすいと大垣」の施設長、河合誠さん(大垣市より委託を受けた「キャラバンメイト」)が講師となり、事例なども交えて、認知症に関する基本的知識や認知症の方へ接するときの心構えなどについて学習し、講義終了後には、オレンジリングが手渡されました。オレンジリングは「認知症サポーター」の証となります。

認知症サポーターには、自分なりにできることやまちづくりを担うリーダーとしての活躍が期待されます。

認知症サポーターとは?

この「認知症サポーター養成講座」を受けた人のことで、認知症に対する正しい知識と理解をもち、地域で認知症の人やその家族に対して支援をする「応援者」のことです。そして認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組むことです。





陸上競技部
TRACK AND FIELD



輝け!
アスリートたち

東海インカレ 東海学生記録更新 走幅跳7m82cm 本学“初”最優秀選手賞受賞

石倉 南斗選手(スポーツ経営学科4年 新潟産業大付属高校出身)

今年の目標の一つが松原瑞貴コーチの持つ東海学生記録(7m80)の更新でしたが、正直こんな前半シーズンで更新することができると思っていませんでした。しかし、それを更新する力を持っている自信はあったので、早い段階で目標を達成することができて良かったです。

東海インカレの最優秀選手賞は意識していませんでしたので、まさか本学初受賞が私だとは思っていませんでした。嬉しさが増えました。

今後は8mジャンプと東海学生記録のさらなる更新を目指して頑張ります。

第84回東海学生陸上競技対校選手権大会(優勝種目)

男子400m	優勝	川満 健太(スポーツ経営学科4年 那覇西高校出身)
男子800m	優勝	大島 実(スポーツ経営学科1年 大津商業高校出身)
男子4×100mR	優勝	石倉 南斗(再掲) 藤本 峻介(スポーツ経営学科3年 伊勢工業高校出身) 山本 兼也(スポーツ経営学科2年 伊勢工業高校出身) 小田 直弥(スポーツ経営学科4年 新潟産業大付属高校出身)
男子走幅跳	優勝	石倉 南斗(再掲)



陸上競技部 品田 直宏 監督

東海インカレ男子走幅跳において、5本目の跳躍で自己記録を更新する7m82を記録し、昨年に続く連覇を果たしました。この記録は本学OBで現・跳躍コーチでもある松原瑞貴コーチが2014年に樹立した7m80を上回る東海学生新記録となり、この活躍が評価され本学では初となる最優秀選手賞も獲得しました。記録、競技内容とも素晴らしいものですが、この結果に満足せず、大目標となる秋の日本インカレでは更なる記録の更新と表彰台を期待しています。



バレーボール部
VOLLEYBALL



西日本インカレ 男子2年連続ベスト4で3位入賞 女子ベスト8



6月27日～7月1日には、2018年度第44回西日本バレーボール大学選手権大会(通称:西日本インカレ)が行われ、男子バレーボール部は準決勝で地元東海学連所属の愛知学院大学と対戦しました。惜しくも決勝戦へ進むことはできませんでしたが、昨年に引き続き、2年連続で最終成績3位入賞を果たしました。

また、女子バレーボール部も決勝トーナメントまで勝ち上がり、広島文化学園大学と対戦し、惜しくもベスト4まで残ることはできませんでしたが、昨年度の成績を大幅に更新して、ベスト8という結果を残しました。

男子バレーボール部 平田 勝彦 監督

今回の西日本インカレは、正直どこまで勝つ事ができるか不安なチームでしたが、4年生中心に一致団結して1つ1つの壁を乗り越えてくれました。欲を言えば決勝までいきたかったのですが、優勝した愛知学院大学にもあと1歩の戦いをしてくれたので、去年と同じ3位でしたが、内容的にステップアップできていると思います。

この先、天皇杯東海ブロック、東海秋季リーグ戦、全日本インカレと続きますが、良い結果を残せるように頑張っていきます。ご声援ありがとうございました。

2018年度上半期の主な課外活動成績

●ボート部

第63回中日本レガッタ
男子舵手なしフォア 4位

第71回朝日レガッタ
女子ダブルスカル 6位

第40回全日本軽量級選手権大会
男子舵手なしクォドルプル 8位

●硬式野球部

平成30年度東海地区大学野球春季リーグ戦岐阜県リーグ
総合成績 5勝6敗 5位

〈個人成績〉

首位打者 小濱 優磨(スポーツ経営学科4年 南風原高校出身)

〈ベストナイン〉

二塁手 小濱 優磨(再掲)

三塁手 喜友名 泰人(スポーツ経営学科4年 読谷高校出身)

●サッカー部

2018年度第57回東海学生サッカー一部リーグ戦
前期成績 2勝3分6敗 勝ち点9 11位

●女子ソフトボール部

第15回東海地域大学ソフトボール選手権大会
4位 2年ぶり3回目 全日本大学選手権大会出場

●陸上競技部

日本学生個人選手権

男子400m 4位 川満 健太(再掲)

男子走幅跳 2位 石倉 南斗(再掲)

男子やり投げ 4位 水野 佑哉(スポーツ経営学科4年 大垣商業高校出身)

●駅伝部

秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝対校選手権大会
東海地区選考会

総合成績 3位 4時間16分57秒93

「若者が人生の可能性を広げることを応援する」 政府広報に本学駅伝部が紹介されました。



<https://www.gov-online.go.jp/cam/dokoiki/train/>

この政府広報は、地方創生をテーマに今年から実施しており、新しい場所で新しい生活をはじめたみなさんへ地元の方々からメッセージを送る「どう生きる?どこで生きる?」47都道府県プロジェクトにおいて、岐阜県では本学駅伝部が紹介されました。卒業後は岐阜県を離れて働いている本学駅伝部の卒業生、村田裕哉さんへ、在学時には共に生活し全国駅伝出場を目指した大学の後輩たちから声援が送られました。

◀この写真は、東京メトロ、山手線の中吊り広告、東京駅中央通路のデジタルサイネージに掲出されました。

村田 裕哉さんから駅伝部後輩たちへメッセージ

こちらは元気に生活を送っています。最初は慣れない場所での新生活、仕事では分からないことばかりで不安でいっぱいでした。ようやく落ち着いた生活を送れるようになりました。

駅伝部の大会結果はいつも気にかけています。残念ながら全日本大学駅伝の出場は逃しましたが、次の目標、また来年に向けて日々の練習に励んでください。苦しいことや上手いかわないことが多くあると思いますが、ひとつひとつ乗り越えていってください。これからも遠く離れた場所から応援続けます。元気に頑張ってください。



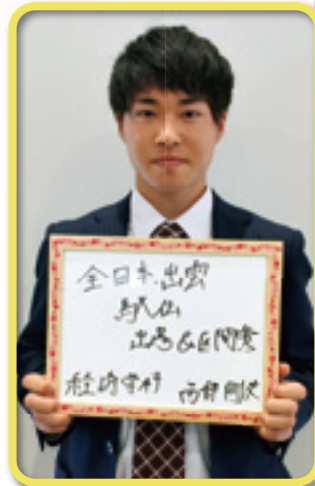
キャンパス 彩々 Campus Saisai

4月4日(水)、本学52回目となる入学式が挙行され、学部・大学院・留学生別科あわせて358名が入学しました。

山田武司学長から「教養は社会を見る目を養う。学問に関心を持ち、興味あることをどんどん吸収し、学びや研究の楽しさに触れて欲しい」とあいさつがありました。また、新入生を代表し、経営学部スポーツ経営学科の白木七星さん(市立岐阜商業高校出身)から「真摯に勉学に励み、充実した日々をしたい」と誓いの言葉がありました。

入学式

新入生
「夢」・「目標」
宣言



新入女子学生歓迎会

4月6日(金)に、学食「Cafe Rest50」において、新入生を対象とした女子会を開催しました。この歓迎会は、女子学生同士の学部・学科をこえた交流の機会を提供することで、友人づくりのきっかけとしてもらうことを目的として、昨年度から開催しています。

ケーキやパンを食べながら、先輩女子学生たちと話をしました。多くの新入生から先輩たちへ質問する場面が見られ、大学生活での不安が解消され、期待が膨らみました。

新入女子学生のみなさん、4年間の大学生活で、学習も課外活動も頑張ってください。そして、先輩女子学生のみなさん、後輩女子学生のみなさんが充実した学校生活が送れるように、たくさんのアドバイスをお願いします。



自販機を巡って「しらかわGOくん」のキーホルダーをGET!

私たちソフトピア共同研究室では、白川郷の魅力を感じてもらい、この地区での滞在時間を延長させることを目的として、白川郷のゆるキャラ、『しらかわGOくん』を使用したスタンプラリー形式のアプリケーションを開発しました。このアプリケーションは白川郷内で利用可能で、5つの自動販売機に設置されたQRコードを読み取ることでスタンプが取得でき、5つ全てのスタンプを集めると『しらかわGOくん』の亚克力キーホルダーと交換できます。

この開発では、白川郷もりあげ隊と会議を行い、学生だけの会議では得られない意見を伺うことができました。

アプリケーションを使ったイベントを2017年5月と8月に実施し、8月には、現地で、オリジナルTシャツを着用して観光客へチラシを配布し、イベントの宣伝を行いました。現地での活動や、企業の方との協力を通して、自分から行動する大切さ、人との関わりを大切に接し方を学ぶことができました。今後、より多くの方にアプリケーションを知ってもらえるように、バス会社など様々な企業の方に協力をお願いし、宣伝の範囲を広げて、さらに白川郷の魅力を発信できるようにしていきます。



学会発表

情報処理学会第80回全国大会の学生セッションにて、2017年の3月から開発を続けてきた、『しらかわGOくんスタンプラリー』アプリケーション、について発表を行いました。数少ない全国大会の場で、これまでの活動を紹介したいとの思いからです。このアプリケーションはスタンプの取得にQRコードを利用しているほか、iBeaconを利用し、観光情報の提供も行っています。iBeaconを利用した開発は初めてで、十分な理解が難しかったため、先輩や先生に教を請い、発表の練習を繰り返し、システムについて説明できるように努力しました。全国大会本番は、周りの雰囲気にもまれそうになり緊張しましたが、聴衆の様子から、理解してもらえていることがわかり、人に伝わる発表ができたと安心しました。この開発に興味を持っていただいたり、改善点を教えてもらったりして、とても有意義な時間を過ごすことができました。結果として学生奨励賞をいただきました。今後さらに発表の機会を増やし、経験を積んでいきたいと考えています。

永井拓登さん(情報メディア学科3年 吉城高校出身)



2018年度に実施する 科学研究費助成事業による研究について

科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

今年度は、研究代表者として杉原 健一教授、佐々木 喜一郎講師の2名が新規採択となりました。

■ 基盤研究

職名	氏名	研究期間	研究テーマ
経済学部教授	勝田 美穂	2018～2020	[分担]看護基礎教育の政策教育プログラム開発研究—コンピテンシー明確化と教育内容の検討—
経済学部教授	藤岡 恭子	2017～2019	[分担]公教育の共同統治を推進する分散型リーダーシップシステムと学習環境調査票の開発研究
経営学部准教授	河合 晋	2017～2019	[分担]産学接続による社会人基礎力養成のための教育プログラム開発
経営学部教授	杉原 健一	2018～2020	BIM用の詳細な建物の3Dモデルの自動生成システムの開発
経済学部教授	藤岡 恭子	2017～2019	幼小中接続の相補的アカウンタビリティ・システムの開発をめざす教育福祉行政の研究
経営学部教授	高橋 信一	2017～2020	[分担]「ものづくり」のIT化と産業技術基盤の変容に関する国際比較研究
経済学部准教授	菊本 舞	2017～2019	[分担]宮本憲一氏収集資料を活用した環境政策形成史に関する研究
経営学部教授	杉原 健一	2016～2018	[分担]スマート機器などの環境3Dモデルを自動生成する環境教育支援システム
経済学部准教授	水野 和佳奈	2016～2019	公務員の労働意欲の要因と成果に関する実証的研究
経営学部教授	杉原 健一	2015～2017	[分担]都市計画規制の影響を考慮した緑の建築と省エネルギーの効果を検証するVRツール
経済学部教授	佐藤 八千子	2015～2017	[分担]第三者評価事業が社会福祉施設に根づくシステムの構築
経営学部講師	為房 牧	2015	[分担]リスク情報の統合開示に関する総合的研究—統合報告にみる新しい財務報告の視座—
経営学部准教授	井戸 伸彦	2015～2017	手書き文字自動採点システムの実用化に向けた運用実験
経営学部教授	杉原 健一	2015～2017	安全地区へ集団移転等の整備案の3Dモデルを自動生成する防災まちづくり支援システム
経営学部教授	韓 金江	2013～2015	[分担]市場環境適応・市場ガバナンス・企業ガバナンスから見る中国の「国進民退」現象
経営学部教授	杉原 健一	2011～2013	[分担]中国における低炭素都市づくりに向けての計画制度システムの現状と課題
経営学部教授	杉原 健一	2010～2012	Webベースの遺跡等の3Dモデルを自動生成する考古学、まちづくり支援システム

(職名は採択時のもの)

■ 若手研究

職名	氏名	研究期間	研究テーマ
経営学部講師	佐々木 喜一郎	2018～2019	IoTデバイスを活用した特別支援学校における教育補助アプリケーションの開発
経営学部講師	田中 紀子	2017～2019	インクルーシブ授業におけるカリキュラム・デザイン方法の開発的研究
経営学部講師	伊藤 嘉人	2014～2017	体育科教育における「体育理論」の教科内容構成論

(職名は採択時のもの)

高橋正紀教授のコメントが「AERA」、 「朝日新聞」に掲載されました。

AERA 「スポーツマンのこころ」2018年3月26日

AERA 「日大アメフト選手の悪質タックル問題」2018年5月28日

朝日新聞 「耕論 アメフト問題映すもの」2018年6月1日

大学生のスポーツ選手はグッドルーザーに徹するべきである！

大学生活の中で自分の自由時間の多くを費やして競技活動を継続するスチューデントアスリートのあるべき姿は、負けた時に自分を負かした相手選手やチームを讃えることができるグッドルーザー（良き敗者）である。グッドルーザーの態度は、“勝って驕らず、負けて腐らず”のさらに先の境地である“勝ったら感謝！負けたらありがとう！”のステージであり、これこそが大学スポーツの目指すべき在り方である。

本学OB飯田覚士さんが客員教授に就任

2018年4月、岐阜経済大学の客員教授として飯田覚士さんが就任されました。

飯田覚士さんは日本の元プロボクサー。愛知県名古屋出身で岐阜経済大学経済学部卒業生です。元WBA世界スーパーフライ級チャンピオンであり本学ボクシング部の出身。大学入学後にボクシングを始め、本学のリングで世界を目指しました。

また、2018年4月に人生を変える「見る力」（マキノ出版）を出版されました。

内容紹介

1日5分からいい。
本書で紹介する4つのトレーニングで、何歳からでも「見る力」は高められます。
「見る力」を高めると、人生を変えられます。





生涯にわたりスポーツに親しめる 指導・支援法を探求する

ふ る た や す お
経営学部 古田 康生 准教授



生涯スポーツやレクリエーションスポーツの指導法(支援法)を主なテーマとして研究しています。中学校や高等学校での部活動のように大きなスポーツ競技大会の試合で勝利するための指導法も、生涯スポーツの指導法も根本的には、実施者の自己実現を支援する点では共通していますが、その活動の過程でのアプローチの仕方(例えば、技術指導)に多少違いがあると考えています。同じスポーツ種目であっても、一方は「勝つ」という目的達成のために日々の練習で自らを追い込ませ、勝利を体感させることで成長に導く指導法と活動そのものを楽しみ、仲間との交友やストレスの発散といった情緒の解放を手助けする指導法は異なるのではないのでしょうか。とは言うものの、いずれのスポーツでも多くの指導者は、競技スポーツ経験者が多く、その経験を基に生涯スポーツの支援をするのは問題があります。そこで現在、勝敗以外のスポーツの価値観に注目した指導者養成カリキュラムの開発を研究しております。幼児期からシニア期までの各ライフステージで、個人々の目的に応じた指導支援ができる指導者を養成したいのです。加えて、レジャー・スポーツとして注目される登山、ノルディックウォーキング、キャンプといった活動やスポーツ・ツーリズムなどの余暇活動に関する企画提案できる指導者養成の必要性を強く感じ、新たな研究テーマにする計画です。

PROFILE

岐阜市出身。学生時代は千葉県と愛知県で、就職してからは、東京都、大阪府、埼玉県、福岡県、岡山県にて過ごし、久々に戻ってきました。これまで、栄養士と保育者養成課程の専門学校、短期大学、四年制大学で従事しました。この間、どの居住地でも一貫して、地域でのレクリエーション事業に関わり、地域住民のつながりや健康づくりに参画しています。本学でも、地域との連携を図り、レクリエーション指導者養成の充実を図ります。

趣味拝見

小学校1年生から剣道をはじめ、大学では武道学科に在籍し、剣道を専攻しました。しかし、全国レベルの猛者には全く歯が立たず、多くの挫折を味わいました。久しく稽古はしておりませんが、時間があるときは、竹刀を持ち出し“素振り”を繰り返しております。範士浅川春男先生に手ほどきを受け、その後に数多くの素晴らしい師に出会わせてくれた剣道は、これからも大切にしたい“宝物”です。

近著紹介

対話でつくる 教科外の体育

神谷 拓編著 伊藤嘉人 分担執筆
学事出版 2017年10月

本著は、学校教育における体育祭・体育行事、児童会・生徒会・体育委員会のスポーツ活動、学級活動と体育・スポーツ、そして運動部活動といった「教科外の体育」の制度史、指導の原理、実践論がまとめられています。保健体育の教師だけでなく、あらゆる教師が「教科外の体育」に関わる可能性があるのですが、これまで、このような本が刊行されてきませんでした。

現在、教育現場で働いている教師、これから教師になろうとしている学生、そして、「教科外の体育」に関わろうとしている外部指導者・部活動指導員の方々にお読み頂きたい1冊です。



経営学部 准教授
伊藤 嘉人

スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり —指導案の基本とプラン集—

学校体育研究同志会編 伊藤嘉人 分担執筆
創文企画 2018年3月

本著は、「体育は何を教える教科か」との問いに答えるために刊行されたと言っても過言ではありません。第1部では、体育・健康教育の授業づくりの理論的な知識、第2部では実践的な知識についてまとめられています。理論と実践を往還しながら指導案について検討できるように構成されています。これらの知識を学び、教師が、自分の頭で、子どもにとって必要な教育内容を考え実践する。冒頭の問いに答えられるようにしたい(なってほしい)という期待をもって、本書は企画、刊行されました。



経営学部 准教授
伊藤 嘉人

スポーツマネジメント実践の現状と課題 —東海地方の事例から—

大野貴司編著 篠田知之 分担執筆
三恵社 2018年3月

本書は東海地方に活動の拠点を置く10名の著者が、各自のフィールドにおけるスポーツマネジメントの実践を紹介したものです。私は大学におけるスポーツマネジメント教育の現状を紹介するとともにこれからの課題について書きました。



経営学部 准教授
篠田 知之

〔受取利息・配当金収入〕 1,826万円

定期預金利息及び有価証券等の利金1,826万円です。

〔その他の収入〕 11億7,200万円

創立50周年記念事業である第2体育館及び新2号館校舎建設費として第2号基本金引当特定資産7億8,500万円、有価証券の運用替えとして減価償却引当特定資産3億円を取り崩しました。

②支出の部

〔人件費支出〕 9億7,124万円

専任教職員等の給与及び退職者への退職金です。専任教職員の採用及び退職金の増加により、前年度比4,571万円の増加となりました。

〔教育研究経費支出〕 6億1,884万円

創立50周年記念事業における旧2号館解体のほか、学生への奨学事業(学費減免、私費留学生奨学金等)、語学留学助成事業、課外活動助成事業(強化・準強化指定クラブ合宿費、遠征費等)等により前年度比4,967万円増加しました。

〔管理経費支出〕 1億5,941万円

広告費や高校訪問等の学生募集経費のほか、創立50周年記念事業等により前年度比3,100万円減少しました。

〔施設関係支出〕 9億3,036万円

創立50周年記念事業である第2体育館の完成、新2号館建設費の中間支払いを実施した結果、前年度比5億1,736万円増加しました。

〔設備関係支出〕 4,540万円

大学構内ネットワーク機器の更新、体育館トレーニング機器更新を実施しました。

〔資産運用支出〕 3億2,000万円

退職給与引当特定資産を2,000万円繰入れました。また、減価償却引当特定資産で運用している有価証券が満期償還したため定期預金へ運用替えしました。

資金収支計算書 2017(平成29)年4月1日～2018(平成30)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部			
科目	2017年度	2016年度	差異
学生生徒等納付金収入	1,335,406	1,320,138	15,268
手数料収入	23,100	24,016	△ 916
寄付金収入	78,939	76,179	2,759
補助金収入	343,757	309,058	34,698
資産売却収入	400,000	300,000	100,000
付随事業・収益事業収入	14,120	9,116	5,003
受取利息・配当金収入	18,263	14,739	3,524
雑収入	62,956	50,049	12,906
前受金収入	255,479	271,347	△ 15,868
その他の収入	1,172,009	520,163	651,846
資金収入調整勘定	△ 402,981	△ 330,405	△ 72,576
当年度収入の部小計	3,301,050	2,564,403	736,647
前年度繰越支払資金	2,696,443	2,917,528	△ 221,085
収入の部合計	5,997,493	5,481,931	515,562
支出の部			
科目	2017年度	2016年度	差異
人件費支出	971,246	925,535	45,711
教育研究経費支出	618,847	569,172	49,674
管理経費支出	159,414	190,415	△ 31,001
施設関係支出	930,363	412,999	517,364
設備関係支出	45,402	30,618	14,783
資産運用支出	320,000	600,000	△ 280,000
その他の支出	39,512	81,398	△ 41,886
資金支出調整勘定	△ 33,610	△ 24,650	△ 8,959
当年度支出の部小計	3,051,175	2,785,488	265,687
翌年度繰越支払資金	2,946,318	2,696,443	249,875
支出の部合計	5,997,493	5,481,931	515,562

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。

創立50周年記念事業のために第2号基本金へ組入れ済みの7億8,500万円を振り替えた結果、1億1,235万円の組入れとなりました。

事業活動収支計算書 2017(平成29)年4月1日～2018(平成30)年3月31日まで (単位:千円)

科目	2017年度	2016年度	差異
学生生徒等納付金	1,335,406	1,320,138	15,268
手数料	23,100	24,016	△ 916
寄付金	11,420	7,393	4,026
経常費等補助金	243,757	289,058	△ 45,301
付随事業収入	14,120	9,116	5,003
雑収入	62,956	50,049	12,906
教育活動収入計	1,690,760	1,699,773	△ 9,012
人件費	988,589	888,099	100,489
教育研究経費	815,682	758,564	57,117
(内減価償却額)	196,830	189,158	7,672
管理経費	210,402	223,615	△ 13,213
(内減価償却額)	50,892	33,763	17,129
教育活動支出計	2,014,674	1,870,280	144,393
教育活動収支差額	△ 323,913	△ 170,507	△ 153,406
受取利息・配当金	18,263	14,739	3,524
教育活動外収入計	18,263	14,739	3,524
教育活動外収支差額	18,263	14,739	3,524
経常収支差額	△ 305,649	△ 155,768	△ 149,881
資産売却差額	227,730	420	227,310
その他の特別収入	193,024	90,315	102,708
特別収入計	420,754	90,735	330,018
資産処分差額	57,480	11,773	45,707
特別支出計	57,480	11,773	45,707
特別収支差額	363,273	78,961	284,311
基本金組入前当年度収支差額	57,623	△ 76,806	134,430
基本金組入額合計	△ 112,354	△ 623,982	511,627
当年度収支差額	△ 54,730	△ 700,788	646,057
前年度繰越収支差額	148,941	784,729	△ 635,788
基本金取崩額	0	65,000	△ 65,000
翌年度繰越収支差額	94,210	148,941	△ 54,730
(参考)			
事業活動収入計	2,129,779	1,805,247	324,531
事業活動支出計	2,072,155	1,882,054	190,100

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。

(3) 貸借対照表

「貸借対照表」は年度末における資産、負債及び基本金等の状況を表したものです。

資産の部の合計は、137億8,487万円となり、前年度末に比べて1億587万円(0.8%)増、負債の部の合計は、8億738万円となり、前年度末に比べて4,824万円(6.4%)増、純資産の部は、129億7,749万円となり、前年度比5,762万円(0.4%)の増加となりました。

貸借対照表 2018(平成30)年3月31日 (単位:千円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	10,705,352	10,922,554	△ 217,202
有形固定資産	6,571,900	5,874,464	697,436
特定資産	3,261,430	3,861,460	△ 600,030
その他の固定資産	872,021	1,186,630	△ 314,609
流動資産	3,079,526	2,756,451	323,075
資産の部合計	13,784,878	13,679,005	105,873
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	465,742	448,399	17,343
流動負債	341,644	310,738	30,905
負債の部合計	807,387	759,138	48,249
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	12,883,280	12,770,926	112,354
第1号基本金	12,371,280	11,473,926	897,354
第2号基本金	375,000	1,160,000	△ 785,000
第4号基本金	137,000	137,000	0
繰越収支差額	94,210	148,941	△ 54,730
翌年度繰越収支差額	94,210	148,941	△ 54,730
純資産の部合計	12,977,491	12,919,867	57,623
負債及び純資産の部合計	13,784,878	13,679,005	105,873

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。

平成29年度決算報告

事業の概要

地方の大学を取り巻く環境は厳しさを増しており、18歳人口は、2018年以降再び減少に転じ、2031年までに21万人が減少し99万人になると見込まれています。この状況のなかで、全国の大学は「少子化時代の大学間競争」という大きな問題に直面していきます。

2017年4月に本学は、大垣女子短期大学と法人合併し、「学校法人大垣総合学園」として新たにスタートしました。この合併により、法人の経営基盤は強化され、両大学が有する特色ある教育・研究資源とスケールメリットの相乗効果を最大化し、地域が期待する高等教育機関としてさらなる飛躍に挑戦する基盤をつくることができました。

岐阜経済大学は、この度「ビジョン・中期計画(2018-2022)」を策定しました。引き続き、「社会で生き抜く力を持った人材の養成」に努め、「受験生から選ばれる大学」の実現を目指して教職員一同が一致団結していきます。

◎教育改革

2019年4月開設に向けて、大垣女子短期大学看護学科を改組転換し、岐阜経済大学に看護学部看護学科を設置する認可申請を2018年3月に行いました。看護学部の開設は、創立50周年に定めた「re-Birth」の旗印の下、2019年4月の「岐阜協立大学」への大学名称変更を含めて、社会科学系大学であった本学が大垣女子短期大学との連携の下で生まれ変わるものです。

◎クラブ活動の実績

硬式野球部は、全日本大学野球選手権大会に初出場し同大会ベスト8となり、與座投手が西武ライオンズに5位指名され入団しました。また、サッカー部は天皇杯に出場、谷口選手が東海リーグ得点王を獲得し、ブルージャズ岡山(J3)に入団しました。創立50周年記念の節目に野球、サッカー界への本学初のプロ選手2名輩出は、マスコミに大きく取り上げられ本学を全国にPRできました。

◎学生支援

2017年6月、創立50周年キャンパス整備計画として、第2体育館(フェニックスアリーナ50)の竣工により、スポーツ活動の一層の活性化が期待されます。また、新食堂(カフェレスト50)の稼働により、学生のアメニティが高まりました。

◎地域連携

2017年にソフトピア共同研究室は、岐阜県白川村、株式会社雄山商事、コカ・コーライーストジャパン株式会社と協力し「白川郷の観光スポットを巡覧できるアプリケーション」を開発し、実証実験を兼ねた現地での広報活動も行いました。この事業は「情報処理学会第80回全国大会」にて研究発表され、学生奨励賞を受賞しました。これらの連携事業は、地域実践型教育として高く評価されました。

◎高大連携

2017年11月、岐阜県立池田高等学校と岐阜経済大学、法人合併した大垣女子短期大学と合わせて3者で連携協定を締結しました。本学にとって10校目の高校との連携協定となりました。今回の連携協定により、キャリア教育や部活動への指導者派遣等により、地域に有為の人材を育てることを目指しています。

◎創立50周年記念事業

2017年6月1日に創立50周年記念式典が、盛大に行われました。理事長からは大垣総合学園のキャッチコピー「Value Up!! ~あしたのために“今”やろう~」が挨拶の中で謳われ、学生による「岐阜経済大学 re-Birth宣言」が披露され、新たな50年への決意を表明しました。

財務の概要

岐阜経済大学の財務の概要についてご報告します。

資金収支計算書では、翌年度への繰越支払資金は29億4,631万円となり、前年度より2億4,987万円増加しました。

事業活動収支計算書では、事業活動収入計から事業活動支出計を差し引いた単年度の収支差額は5,762万円の収入超過ですが、基本金1億1,235万円を組み入れた当年度収支差額は5,473万円の支出超過となり、翌年度への繰越収支差額は9,421万円となりました。

(1)資金収支計算書

「資金収支計算書」は、当該会計年度(4月1日～翌年3月31日)の諸活動に対応するすべての資金(現金の出入り)の動きを表したものです。資金収支の内容について、主な科目を説明します。

①収入の部

〔学生生徒等納付金収入〕 13億3,540万円

授業料、入学金、実習料、教育充実資金の収入です。授業料納付学生数は1,292名、前年度比1,526万円の増加となりました。

〔寄付金収入〕 7,893万円

創立50周年記念事業寄付金6,751万円、硬式野球部全国大会出場寄付金を始めとするスポーツ振興寄付金404万円、ボート部寄付金163万円、親和会からの助成金(スクールバス運行費助成、食堂運営助成)575万円を受け入れました。

〔補助金収入〕 3億4,375万円

国庫補助金、地方公共団体補助金等の収入です。国庫補助金は2億4,067万円、大垣市からの施設設備補助金等7,030万円、(公財)田口福寿会からの創立50周年記念事業施設設備助成金等3,195万円を受け入れました。

〔資産売却収入〕 4億円

有価証券の売却収入4億円です。

〔付随事業・収益事業収入〕 1,412万円

国土交通省、大垣市等からの委託事業6件、1,217万円、公開講座受講料収入146万円等です。

(2)事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」は、資金の移動を伴わないもの(現金の出入りの他に消費していくもの)として、減価償却額や退職給付引当金繰入額などを計上し、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の均衡状態を表したもので、学校法人の経営状況を示し企業会計の「損益計算書」に当たるものです。

また、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の3つの区分会計を導入し、学校法人の經常的活動、臨時的活動に分けて収支を明らかにしています。

さらに、学校法人は安定的かつ持続性保持のために基本金組入という企業会計とは異なる処理をしています。基本金は、将来校舎等の再取得に必要な基金として積み立てることを目的としているため、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を控除した上で当年度の収支バランスをみるという点が学校法人会計の特徴です。

なお、事業活動収支計算書の収支科目の多くが資金収支計算書の収支科目と共通していますので、事業活動収支計算書固有の内容について主なものを説明します。

①収入

事業活動収入計は、学校法人の負債(返済義務のない収入)とならない収入の合計です。従って、資金収支計算書の収入から資金の動きだけを示す「前受金収入」、「その他の収入」、「資金収入調整勘定」等は除かれます。

〔資産売却差額〕 2億2,773万円

過年度評価減を実施した有価証券が額面に償還したことに伴い、貸借対照表計上額との差額を計上しました。

〔その他の特別収入〕 1億9,302万円

創立50周年記念事業寄付金、施設設備補助金の他に、校友会(親和会協賛含む)からの大型バス、科学研究費補助金による物品の取得及び団体・個人から寄贈された図書等を現物寄付として計上しました。

②支出

事業活動支出計は、施設の建設費や機器備品・図書等の資本的支出に充当する額(基本金組入額)を控除し計上します。従って資金収支計算書の支出科目から「施設関係支出」、「設備関係支出」、「その他の支出」等を除きますが、「教育研究経費」及び「管理経費」には各々減価償却額を加算しています。減価償却額は建物、機器備品などの固定資産の当期償却額を計上しています。

〔資産処分差額〕 5,748万円

創立50周年記念事業における旧2号館解体工事、前庭再整備等で除却した資産簿価5,531万円を計上したため、全体で5,748万円となりました。

③基本金

〔基本金組入額合計〕

第1号基本金は、創立50周年記念事業(第2体育館、新2号館建設、前庭再整備等)、大学構内ネットワーク機器更新、図書等取得に係る基本金8億9,735万円の組入れとなりましたが、

岐阜経済大学創立50周年記念事業寄付受領報告

2016年度から実施しております創立50周年記念事業寄付金は、大垣市並びに地元大垣をはじめとする企業、卒業生、在学生(保護者)、教職員より多大なご支援、ご寄付をいただき2018年7月31日までに286,426,590円を受領いたしました。ご支援いただきました寄付金、助成金は、創立50周年記念事業に充当させて頂きました。創立50周年記念事業は本年度末まで実施いたしますので、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

	件数	金額
自治体	1	90,000,000円
企業・法人	98	167,000,000円
個人	卒業生	257 24,916,990円
	在学生(保護者)	90 1,979,600円
	教職員	51 2,530,000円
計	497	286,426,590円

※現物寄付を含みます。

2017年度スポーツ振興寄付金実績報告

2017年度スポーツ振興寄付金として4,040,000円のご寄付をいただき、課外活動団体の遠征や用品の購入等に充当いたしました。皆様からの温かいご支援、ご協力に感謝し厚く御礼申し上げます。

強化指定クラブ		
・硬式野球部	65件	3,831,000円
・陸上競技部	4件	38,000円
・男子バレーボール部	1件	30,000円
準強化指定クラブ		
・女子バレーボール部	1件	30,000円
・駅伝部	2件	15,000円

一般クラブ		
・スキー部	3件	90,000円
団体を特定しない		
	2件	6,000円
		計 4,040,000円

【受験生の方へ】平成30年7月豪雨で被災された受験生の方へ入試のお知らせ

平成30年7月豪雨により被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

岐阜経済大学では、平成30年7月豪雨による被災者の経済的負担を軽減し、受験生の進学のための確保を図るために、災害救助法適用地域居住の被災者を対象とした入試制度、「特別修学支援奨学生推薦入試」(授業料50%減免)を設けています。この入試制度を希望される方は、岐阜経済大学入試広報課(Tel:0120-77-3514)までご連絡いただきますようお願いいたします。

被災者の皆様が、一日も早く平穏な生活に戻られることを心からお祈りいたします。

法人役員・評議員の就任

2018年5月30日(水)開催の学校法人大垣総合学園理事会において、下記の方が選任されました。

理事(新任)	石川 真恵	大垣市議会議長<任期:2018年5月31日~2019年3月31日>
評議員(新任)	河合 伸泰	河合石灰工業株式会社代表取締役社長<任期:2018年5月30日~2019年3月31日>
評議員(新任)	増田 俊彦	岐阜県立大垣北高等学校校長<任期:2018年5月31日~2019年3月31日>

教職員人事

新規採用



藤岡 恭子
経済学部教授
(教職総論)
愛知県立大学大学院
人間発達科学研究科
博士後期課程修了
博士(人間発達学)



河合 晋
経営学部准教授
(企業会計)
愛知工業大学大学院
経営情報科学研究科
博士課程後期課程
所定単位修得後退学



山本 悠晃
企画広報課主事
岐阜経済大学経営学部
スポーツ経営学科卒業



加納 貴子
入試広報課専門員
岐阜経済大学経営学部
スポーツ経営学科卒業



知花賢汰郎
入試広報課専門員
岐阜経済大学経営学部
スポーツ経営学科卒業



菅間 季昌
キャリアアドバイザー
沖縄県立伊良部高等学校
元 校長



飯田 覚士
客員教授
飯田覚士ボクシング塾
ボクックスファイ 会長

昇格

2018年4月1日付

高木 博史
経済学部教授(経済学部准教授)
三和 元
経済学部准教授(経済学部講師)
安藤 里沙
総務課主査(総務課主事)

名誉教授

2018年4月1日付

石原 健一
経済学部教授

国内留学

菅谷 広宣
経済学部教授 2018年9月21日~2019年3月31日

配置転換

2018年4月1日付

宮川 祐志
総務課長(教務課長)
安田 天
教務課長(総務課長)

学内役職者

2018年4月1日付

石坂信一郎
教務部長・留学生別科長(経営学部教授)
杉山 一也
学生部長(経済学部准教授)
中川 裕司
キャリア支援部長(経営学部教授)

退職

2018年3月31日付

石原 健一
経済学部教授
東新川長 詳
キャリアアドバイザー

天川 伊織
総務課主事

2018年4月30日付

清水 桂子
入試広報課専門員

2018年6月30日付